

各国における国立図書館等のデジタルアーカイブの状況

EU

・ヨーロッパナ(EU版オンライン図書館)において、加盟各国の図書館や博物館等100以上の機関が参加し、資料**600万点**をウェブ公開。2010年までに1,000万点の公開を目指している。

フランス

・フランス国立図書館において、**98万件**のデジタル化データをウェブ公開(うち40万件はテキスト化)

・09年12月、フランス独自の書籍電子化プロジェクトを立ち上げることを表明。

ドイツ

・10年1月、デジタル図書館(DDB)開設に係るプロジェクトを開始。

・オンラインで市民がアクセスできるように、2011年から3万件以上の文化・学術関連施設が提供するデジタルコンテンツと接続予定。

中国

・中国国家図書館において、デジタル資料**72万冊**をウェブ公開。

・対象資料には、現代の中国語図書その他、甲骨文献、音声データ、学術講座等も含まれる。

日本

・国立国会図書館において、所蔵国内資料(図書・雑誌1,000万冊)うち、デジタル化した明治・大正期の国内刊行図書を15万冊をウェブ公開。

・21年度補正予算127億円によって、合計**約90万冊**のデジタル化を予定。

→これによって、全体の10%程度がデジタル化される予定。

韓国

・韓国国立中央図書館において、所蔵資料**38万冊**、**1億ページ**をデジタル化し、ウェブ公開。(うち、17万冊、5,300万ページについては保護期間内であるため、図書館の専用端末でしか利用できない)

アメリカ

・米国議会図書館において、所蔵資料(総計1億4,000万点)のうち、米国の「歴史資料」をデジタル化・ウェブ公開。文書、写真、動画等、**1,500万点**をデジタル化済み。

・Google社が、Googleブックスサーチにより、**700万冊**の出版物をデジタル化済み。

各国では、国家プロジェクトとして積極的に進めている。